

上方落語五流派競演会

寄席文字・橋石佐喜

桂福園治

桂井園治

桂あやめ

笑福亭 鶴笑

林家 染雀

林家 たい平

(江戸落語ゲスト)

2020. **6.13** [土] 14:00開演 / 茨木クリエイトセンター センターホール ※演目は当日のお楽しみ
(13:30開場)

【全席指定】1階席 4,000円 / 2階席 3,500円

65歳以上、障害者及びその介助者 各500円引き / 青少年(24歳以下) 1,000円

茨木市観光協会、茨木市勤労者互助会、OSAKAメセナカード各会員は10%引き (この取扱いは財団のみ) ※就学前のお子様はご遠慮ください

発売日 4月28日(火) 9:00～〈ぴあ・e+(イープラス)・ローソンチケット・財団〉

※発売初日は財団の電話受付は大変混み合う為つながりにくいことがあります。ぴあ、e+、ローソンチケット、財団webをぜひご利用ください。

◆チケットぴあ 0570-02-9999(Pコード500-579) <https://t.pia.jp> ※チケットぴあ・セブンイレブン各店舗で直接購入可

◆e+(イープラス) <http://eplus.jp/> ※ファミリーマート各店舗で直接購入可

◆ローソンチケット <http://l-tike.com/> (Lコード52298) ※ローソン・ミニストップ各店舗で直接購入可

◆茨木市文化振興財団・文化事業係

【電話】072-625-3055 (9:00～17:00/臨時休館日を除き年中無休)

【web】www.ibabun.jp ※web予約の場合、セブンイレブンで精算・受取可。

【窓口】クリエイトセンター1階/福祉文化会館3階 (9:00～17:00)

※財団の発売初日はweb・電話予約のみ。初日の電話予約は1回につき6枚まで。※チケット引取り・窓口販売は翌日から。

公益財団法人
茨木市文化振興財団
主催：**IBABUN**
Ibaraki City Cultural Foundation

制作：三栄企画 構成・解説：相羽秋夫
後援：茨木商工会議所/茨木市観光協会

関西から
文化力
POWER OF CULTURE

Vol.14

開けてビックリ! 「十八番」特集 — 祝・十三世市川團十郎襲名

「花は桜木、山は富士、歌舞伎役者は團十郎」。

名立たる大看板や名跡が多い歌舞伎界で、ひとさわ簀え立つのは、市川團十郎だ。その魅惑の名前が、今年復活した。その披露公演で上演される演目は「歌舞伎十八番」と呼ばれる、市川家が代々受け継いできた得意芸が多く含まれている。そこからお家芸のことを「十八番」と称するようになった。さらに、箱に入れて大切に継承する、との意味で「十八番」と書いて「おはこ」と読まれるようになった。

そこで、わが「上方落語五流派競演会」も團十郎襲名を祝し、厚かましくも肖^{あやか}って、「十八番」特集を組み込むことになった。例年だと、あらかじめ演目が告知されているが、今回だけはそれぞれの演者が最も得意とする、言わば「十八番」と言うべき演目を伏せておいて、演じてもらおうという趣向である。

上方落語界の五つの流派から一人ずつ演者を選定し、一門の名譽をかけた白熱の高座が展開されることで、すっかり「茨木名物」になったこの落語会に、さらに成熟度の高い斬が加わることによって一段高い極みに達することになる。

必ずや、ご満足いただける会になることをお約束して、出演者の顔ぶれを出演順にご案内する。

林家一門の林家染雀から会幕を開ける。

一門の統帥染丸が体調を崩し、第一線を離れるものの、門下生の結束は堅い。その中心でがんばるのが染雀だ。

大阪大学在学中から伝統芸能に興味を示し、歌舞伎・舞踊・長唄・三味線、果ては茶道にも精通している。そうした基礎の広さが斬の中にも反映

し、独特の世界を作り上げている。桂あやめとコンビを組んで音曲漫才を演じているが、これもプロの水準にある。

続く笑福亭一門の笑福亭鶴笑は、「パペツト落語」と題する独自の芸風を売り物にしている。パペツトとは、操り人形・小さな人形の意味の英語で、鶴笑自作の人形を、ある部分に隠していて、斬の途中から人形が登場し、奇想天外のストーリーが展開される。まさに捧腹絶倒の世界が出現する。

10年近い海外生活から生み出された、唯一無二のパフォーマンスにご期待あれ。中入ト리는、米朝一門の五代目桂米團治が受け持つ。人間国宝だった故米朝の長男で、父の師匠の名前を襲名して、名実ともに大御所的存在になった。一門の多くが所属する「米米朝事務所」の社長として、「上方落語協会」の副会長として、米團治の存在は大きくなるばかりだ。

落語同様にクラシック音楽への造詣が深く、オペラとコラボさせた「オペらくご」の試みをしたこともある。五流派の激突に、東京からのゲストをお招きして、一輪の花を添えてもらうのが、この会の特色であるが、今年は、テレビ番組「笑点」でお馴染みの林家たい平が、多忙なスケジュールを調整して来演してくれた。

爆笑王、初代林家三平の一番弟子こん平の弟子



相羽秋夫 (演芸評論家)

で、入門13年で真打に昇進した逸材である。武蔵野美術大学で絵画を勉強。絵心のある斬の世界は、独特のものがある。声帯模写の特技も、たい平の芸域を広げている。

五代目桂文枝一門の桂あやめは、増え続ける女流落語家の旗手としての活躍が見のせない。無類のアイデアマンであり、行動派だ。どんなことにも果敢に挑戦していく。そうした中から、女性目線の創作落語が誕生する。今回は、どんな斬を聞かせてくれるか、興味津々である。

五代目文枝の最初の名前のあやめが、この人の専売特許になってきた。ト리는、三代目春團治一門の四代目桂福團治である。昨年、芸歴60周年を迎え、大阪松竹座で盛大に記念の会を祝った。上方落語界の高座に立つ現役として最古参となった。その歩みは、ずしりと重みのある。

福團治の半生から醸し出される「人情斬」の数々は、聴き手の琴線に触れて涙を誘う。落語が「笑う」だけでなく、「泣く」芸であることを知る瞬間である。吉例14回目となったこの落語会の顔ぶれに、きつと皆様もご納得いただけたよう。団十郎襲名興行のチケット同様に人気沸騰につき、お早い目にご予約されることをお勧めする。

(敬称略)

<【茨木市文化振興財団・文化事業係】で予約されたチケットのお引き取り方法>

電話予約 ▶ 窓口・郵送※

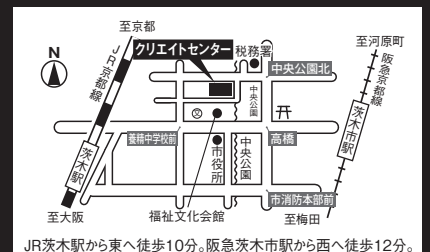
web予約 ▶ 窓口・郵送※・セブン-イレブン引取※ ※要手数料

窓口引取 予約後7日以内に財団チケットカウンターで精算・引取 (ただし、予約開始日翌日から)

郵便払込・郵送 予約後5日以内に郵便局備え付けの「払込取扱票」で(チケット料金+手数料)をお支払い ※入金確認後発送
払込先(払込口座) 00970-7-190576 / 加入者名: 茨木市文化振興財団 ※通信欄に予約番号・公演名・枚数を記入

(web予約限定) セブン-イレブン引取

予約後7日以内に、お近くのセブン-イレブン店頭で(チケット料金+手数料)をお支払いの上チケットをお引取ください



JR茨木駅から東へ徒歩10分。阪急茨木駅西へ徒歩12分。
クリエイトセンター (茨木市市民総合センター)
大阪府茨木市駅前四丁目6番16号 **ibabun** 検索
072-624-1726

■公演に関するお問合せ

茨木市文化振興財団・文化事業係 072-625-3055 (クリエイトセンター1階 9:00~17:00)